



青 於

4月号



11名の新1年生を迎えて31年度スタート

今年は、入学式にあわせてくれたかのように校庭の桜が満開になり、11名の新入生の入学を祝ってくれました。転出した児童が多く、昨年に比べて10名少ない全校児童88名でのスタートとなりました。

4月9日（火）の入学式当日は、真岡市教育委員会学校教育課副主幹 高久和代様、真岡市議会議員 渡邊 隆様、PTA会長 飯塚武敏様、さらには、地域の皆様、保護者の皆様など、多くの方々に祝福していただき、入学式を挙行することができました。

校長式辞では、「新入生の入場や呼名に対する返事がよくできたので、さらに素晴らしい1年生になるために頑張ってもらいたいことを、3つ話しました。1つ目は『楽しく勉強しよう』です。楽しく勉強するためには、先生の話をよく聞くことが大切です。自分で考えることも大切です。勉強をしているいろいろなことが分かると、勉強がもっと好きになります。2つ目は『友だちをたくさんつくろう』です。友だちと仲良くするためには、友だちに優しくすることが大切です。自分がしてほしいことを、友だちにしておあげること



ことも大切です。たくさん友だちをつくり、仲良く勉強したり遊んだりしましょう。3つ目は『元気なあいさつをしよう』です。『こんにちは』など、大きな声であいさつができると、あいさつをした人はもちろん、あいさつをされた人も、とてもよい気持ちになります。友だちや先生、家の人や近所の人に、元気なあいさつをしましょう。」などを話しました。

離任式 (4/10)

石岡美智雄先生は7年間、教務主任として様々な学校行事の計画・実施を行ったり、算数のTTとして授業に携わってくれました。水沼先生は6年間、低学年の担任をしてくれたり、学習指導主任として、学力向上に貢献してくれました。離任された先生方の今後の活躍を期待します。



朝会の話(4/15)「渋沢栄一」

2024年に、お札のデザインが新しくなると発表され、新しい一万円札には、渋沢栄一さんの肖像画が使われることになりました。渋沢さんは、1840年、埼玉県深谷市生まれで、みずほ銀行、王子製紙、東洋紡績、東京ガスなど、500以上の会社を作り、「日本資本主義の父」と呼ばれるようになりました。「資本主義」というと、お金を儲けることだけ考えていると思われがちですが、渋沢さんは、「お金を儲けることは大切だが、仕事はみんなのためにするものだ。」と言っているように、自分だけでなく、みんなの幸せも大切にしました。たくさんの会社を作りましたが、明治7年に真岡の柳林（自然センターの近く）に作った会社が、渋沢さんの最初の会社でした。その当時、ものを運ぶときは舟を使うことが多く、柳林に河岸があったからだと考えられます。その会社は、「柳林農舎（りゅうりんのうしゃ）」といい、養蚕と製茶の2つの農業を展開していました。残念ながら、13年間で会社が終わってしまいましたが、お札に印刷される人が真岡にゆかりのある人だということで、紹介しました。



真似をするときは、その形ではなく、その心を真似するのがよい。

H31 職員紹介

校 長	奥畑 洋市	教 頭	山口 和元	教務主任	村田 博司
1年担任	稲見 有紗	副担任	菱沼はなみ	2年担任	大関 桂子
あおぞら学級	野口 順子	3年担任	仲三河宏翼	4年担任	岩村 郁男
5年担任	角田 佑樹	6年担任	馬橋登志子	養護教諭	岩渕 友美
事務長	手塚 峰子	用 務 員	中田 勇一	※文字囲は、新任です。	

このスタッフで1年間がんばりますので、ご協力よろしくお願い致します。



交通事故に遭わないために3つの話をしました。①「とびだし注意」「左右かくにん」は、一番大切な交通ルール。②沖縄が日本に返還されたとき、沖縄の人たち「全員」が、交通ルールを守ったので、事故が半分に減った。③昨年の芳賀郡市内の小・中学生の交通事故は26件あり、そのほとんどが、自転車に乗っているとき。

交通安全教室 (4/16)

授業参観 (4/19)

「学校教育目標」は、「進んで学習する子ども」「思いやりのある子ども」「元気でがんばる子ども」です。知・徳・体バランスのとれた、子どもを育てることを目標にしています。教育目標を達成するための「具体的なたてだて」として、めざす学校像と子ども像があります。学校像が「いつも笑顔 あふれる たのしい学校」、子ども像が「さ・い・こ・う・の・こを目指して」です。お忙しい中、授業参観、PTA総会にご参加いただき、ありがとうございました。

